

## 論文要約

### 1 現状と問題点

#### 0. アルファベット

#### 1. 単母音、二重母音、三重母音、強母音と弱母音の区別、単語の例示

#### 2. a 子音、単語の例示

#### b 二重子音、単語の例示

#### 3. 音節の分け方

#### 4. アクセントの位置

1.1. 二重子音 — そもそも「音節への分割の例外」を便宜的にグループ化しているだけであって、実質的内容はない。そのため、学習者にとって、暗記が困難。

1.3. 音節及びアクセント — ほとんどのテキストは音節とは何かの説明や定義を与えていない。分節手順の結果得られたものを、そのまま音節として見なすよう勧めているだけである。アクセントの位置に関する規則で、音節に言及する必要はないのではないか。

1.4. アクセントと音節の関係 — 必ずしも明確でない。アクセントの正確な実質を把握しなくても、単語の中で強く目立つ部分というおおざっぱな説明で十分である。また、アクセントは音節全体にかかるという証明がある訳ではない。にもかかわらず、ほとんどのテキストにおいて、アクセントを担う要素は音節であるという前提で表記されている(pa/ta/ta)。しかし、むしろアクセントは母音にかかると説明した方がわかりやすい。実際辞書においてはアクセント記号は母音にのみつけられている(patáta)。このような表記の分裂は、学習者の混乱を招く。

1.5. 完全分節は必要か — アクセントを指導するために、必ずしも必要ないばかりか、むしろ無駄である。

1.6. 未習項目の無統制先取り — アクセントの説明が音節の立脚しているため、どうしても説明順序が子音→アクセントとなり、学生は子音の学習のためにアクセントの指導がないまま例示単語を発音することになる。

### 2 別案

#### 1. 母音の発音 a, e, o / i, u (i, u は母音の前後で半母音になる。)

強母音、弱母音、二重母音という分類語は使用しない。

ai, ou のような組み合わせをいくつか、またはすべて羅列してもよいが、暗記事項にはしない。

#### 2. アクセントの位置

- (1) アクセント符号が付けられた語は、その母音
- (2) 母音か n, s で終わる語は、最後から 2 番目の母音  
n, s 以外の子音で終わる語は、最後の母音
- 3. 各子音の発音、単語の例示(ay, ey など含む。)

## 2.2. 新方式の特色

特長 アクセントの位置を知るための手続きが簡単で、覚えやすくなる。

導入コスト 半母音とその定義

## 2.3. 結論「初級スペイン語教育で、音節や音節への分節を教えることは不必要である。」

上記の結論が妥当であると仮定した上で、どのような教え方があるかの可能性の提示

\*2000 年以降に出版または改訂された教科書のうち、「音節」という概念を導入していないもの

- A 「スペイン語で行こう！」Arturo V. Lopez, 高松英樹ほか(2006)
- B 「入門スペイン語工房」小川雅美、Jordi Juste(2006)
- C 「スペイン料理はいかが？」土井裕文、柿原武史、橋本和美(2007)
- D 「ケ テ パサ？」高橋覚二、糸魚川美樹、福地恭子(2009)
- E 「(三訂版) コミュニケーションのためのスペイン語」坂東省次ほか(2009)
- F 鈴木案
- G NHK テレビでスペイン語 2009 の 6 月号

\*上記の教科書で、[発音の説明にあてているページ数]と説明の順序

- A [3]アルファベット>母音と二重母音>子音>アクセント
- B [6]アルファベット>母音>子音(1)>アクセント(1)>子音(2)>二重母音>アクセント(2)
- C [3]スペイン語圏の国々のつづりと発音>注意が必要な発音一覧(下の表)>アクセント
- D [2]アルファベット>母音と二重母音>アクセント>子音
- E [3]アルファベット>母音>子音>アクセント(付記事項として二重母音)
- F (アルファベット)>母音と二重母音>アクセント>子音
- G 母音>子音>アクセント

\*気づいた点

- 1) スペイン語式アルファベット発音を教える/暗唱させることの是非  
(ñ に注意を喚起するだけで事足りる?) →担当するクラスの性質による

2) 強母音と弱母音の区別と二重母音の教え方

A, D, Fではこの用語を用いて説明している。

B, E では i または u が他の母音と組み合わせると二重母音になることのみ説明。

C では二重母音は教えない。

出口論文の提案する「半母音」という概念を用いたテキストは見当たらなかった。

3) アクセントを教える順序

C, E, F では、アクセント記号（アクセント符号？）が付いている語を先に説明。

A, B, D では、アクセント記号の付いていない語を先に説明。

4) A, D, のテキストでは、アクセントそのものの定義はない。

B, C, E では、いずれも「強く発音する」とのみある。この説明で十分だろうか。学生の中には「その部分を大きな声で発音する」「その部分に日本語の伸ばし記号『一』を入れて発音する」と解釈するものが見受けられる。

5) スペイン語教科書で、発音の説明または手助けとしてカタカナを付記しているものはきわめて少ない。

上のテキストでは、カタカナの使用状況は次の通り。

A アルファベットにのみカタカナを付記

D 原則として使わない

C 別表で使用 (B, E もほぼ同じ)

G ほとんどすべてのスペイン語文に、カタカナで発音を付記（伸ばし記号は使用しない）

カタカナの手助けはどこまで有効か。また、発音記号を教えることの是非。